

雲南市農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当地域の面積は553.4km²であり、島根県の総面積の8.3%を占めているが、その大半が林野を占める典型的な中山間地帯となっており、水稲以外の作物への転換が困難な状況にある。また、農業者の高齢化及び農林作物等への獣被害が深刻化しており、耕作放棄地が増加傾向にある。さらには、認定農業者、集落営農等への農地集積を推進してきたものの、認定農業者、集落営農等も後継者の育成等の課題を抱えており、作物の作付が思うように出来ていない状況である。

しかしながら、今般創設された農地中間管理機構を通じ、地域の中心となる経営体へ農地利用の集積・集約化を進め、農地の活用及び作物の振興を図っていく。

2 作物ごとの取組方針

中山間地域に位置する当地域では、山間部においては良質米の産地であるため、雲南ブランド米として、所得の向上を図る。平野部では、飼料用米を中心とした新規需要米の作付けを推進し、耕作放棄地の拡大を防ぐ。適地適作を基本とし、産地交付金を有効活用しながら、作物生産の維持・拡大を図る。

(1) 主食用米

水稲の良質米生産地帯としての地域特性を活かすと共に、消費者からのニーズの高い安全安心な米づくりに向けた環境にやさしい農業の推進を図る。また、「売れる米づくり」に向けた、同一栽培方法への取組みや担い手への農地集積によるコスト削減を目指す。また、地元酒造メーカーから増産要望のある酒造好適米については、生産数量目標の外数枠での生産を推進する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米は平成23年度から取り組んでおり、転作作物の中心作物に位置付け、畜産農家との連携を強め、生産流通体制の整備を図り、多収性専用品種での作付拡大や集約化を推進する。

イ 米粉用米

今後、米粉用米を使用した米粉麺の開発・商品化により需要が見込まれるため、新たな戦略作物として位置付け、生産流通体制の整備を図り作付拡大や集約化を推進する。

ウ WCS用稲

集落営農組織と畜産農家との連携を進め、国産粗飼料自給率の向上に向け作付維持を図る。

(3) 麦、大豆、飼料作物

地産地消的な取組が主だが、地域内の需要要望もあることから作付を維持し、農家所

得向上に向け、そばとの二毛作や団地化を推進する。

(4) そば、なたね

近年は干ばつの影響もあるため、乾田地帯はそばの作付推進を図る。また、「雲南産そば」を中心とした6次産業化の取組を推進し作付面積の拡大や団地化を図る。

なたねについては、地産地消の定着化を推進する。

(5) 野菜、花卉、果樹

なす・ピーマン・パプリカ・ほうれん草・インゲン・トマト・ネギ・メロン・小玉スイカ・とうがらし・水耕野菜・糸瓜・白菜・キャベツ・ニンニク・里芋・しょうが・採種・山菜の野菜、花卉、ぶどう・さくらんぼ・柚子・柿・梅・栗・プルーン・ブルーベリーの果樹を振興品目として位置付け、産直市場を中心に安定的な供給を行うために、作付農業者の拡大と併せ作付推進を図る。

(6) 加工用青刈り稲

地域の伝統工芸品であるしめ縄・しめ飾り等わら細工の材料として、需要に応じた作付に取り組む。

(7) 不作付地の解消

湿田地帯は「飼料用米」、乾田地帯は「そば」の作付推進を図る。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 25 年度の作付面積 (ha)	平成 26 年度の作付予定面積 (ha)	平成 28 年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	1,780.7	1,723.7	1,650.0
酒造好適米（外数枠）	0	1.4	2.0
米粉用米	1.2	1.3	3.0
飼料用米	15.1	45.2	70.0
WCS用稲	1.1	1.1	1.1
麦（小麦）	2.9	3.8	4.0
大豆	20.6	21.6	22.0
飼料作物	34.3	34.3	36.0
そば	21.3	24.0	28.0
なたね	0.4	0.4	0.4
その他地域振興作物	83.9	86.4	91.4
野菜	33.5	35.0	38.0
花卉	9.8	10.0	12.0
果樹	40.2	41.0	41.0
加工用青刈り稲	0.4	0.4	0.4
合計	1,961.5	1,943.2	1,907.9

4 平成 28 年度に向けた取組及び目標

取組 番号	対象作物	取組	分類 ※	指標	平成 25 年度 (現状値)	平成 26 年度 (予定)	平成 28 年度 (目標値)
1	米粉用米	米粉用米を使用した地域 特産品の開発・商品化	ウ	作付面積	1.2	1.3	3.0
2	飼料用米	作付面積の集約化	ア	作付面積	15.1	45.2	70.0

※「分類」欄については、要綱（別紙 11）の 2（5）の ア、イ、ウのいずれに該当するか記入して下さい。
（複数該当する場合には、ア、イ、ウのうち主たる取組に該当するものをいずれか 1 つ記入して下さい。）

ア 農業・農村の所得増加につながる作物生産の取組

イ 生産性向上等、低コスト化に取り組む作物生産の取組

ウ 地域特産品など、ニーズの高い製品の産地化を図るための取組を行いながら付加価値の高い作物
を生産する取組

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり